

二九精密機械

βチタン極細管在庫販売

世界初のサイズ標準化

二九精密機械工業(本社|京都市南区、二九良三社長)は9月から、β(ベータ)チタン極細管の在庫販売を開始する。自社製造するチタン合金パイプの需要開拓を推進するため、外径0・71mm・76mm(12・22ゲージ)の11種類の標準サイズを制定して、常時販売できる体制を整える。βチタン極細管のサイズ標準化は国内外で初めて。使用ニーズに応じて内面研磨やノズル組み立てに応じるなど、製品の付加価値向上にも取り組む。

来月から11種類で開始

βチタンはチタン・バナジウム・アルミニウム合金。その極細管は曲げへの高い復元性、チタン・金属精密製品の機械加工

を確立。12年末にβチタン極細管専用の京都工場(京都市南区)を立ち上げた。

分析機器、航空宇宙、一般産業、レジャーなど幅広い分野で採用実績がある。これまでパイプ素材の外販も行ってきたが、顧客が要求するサイズに合わせてβチタンの短納期ニーズに対応するため、量産可能なサイズを中心に標準サイズを制定

し、在庫販売に踏み切ることにした。

9月からのスタートを旨とする在庫販売の定尺長さは500mm直管で、一本から切断販売にも対応する。径のサイズは注射針規格の12ゲージ(外径2・76mm、内径2・40mm、肉厚0・18mm)から22ゲージ(外径0・71mm、内径0・41mm、肉厚0・15mm)までの11サイズと、厚肉パイプ仕様(外径1・60mm、内径0・60mm、肉厚0・50mm)の上サイズを設定した。

の内面粗度(Ra)は0・8μm未満だが、10分の1の0・08μm未満まで研磨することも可能。フェルト砂レーサーによる塗層加工、ファイバーレーサーによるスリット加工、レーザー溶接、ノズルなどへの部品加工も行う。

また、同社は耐薬品性をも付加できれば(二九社長)と期待する。

コートを開発し、極細管の内面コーティングにも取り組んでいる。「βチタンの認知度はまだ高いとはいえない。すぐに使っていただけ体制を整えることで、今まになかった需要を掘り起こし、それに当社の加工の強みも付加できれば(二九社長)と期待する。